# 宇宙ステーション時代目前の感

## 横たわるH2ロケットに度肝

十勝航空宇宙産業基地構想研究会（会長・田本窓吾帯広市長）は五一八日の日程で宇宙開発関連施設の視察を行った。一行は横田耕一帯広市長を団長とする八人で、科学技術庁、宇宙開発事業団、日本電気、三菱重工各関り、宇宙開発に対する認識を深めた。特に、H1、H2ロケットの製作、試験現場をみて、普実に宇宙開発が進んでいる―という印象だった。以下同行記者をまとめた。（小野寺　裕記者）

ワイドリポート20（1市19町村）

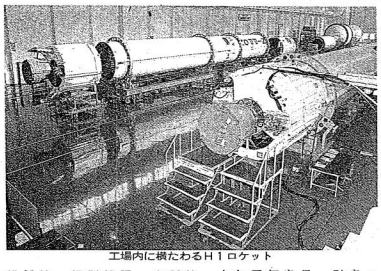
### 十勝構想研の宇宙開発関連施設視察同行ルポ

HOPE

## 帰還場所は検討課題

### ハンディない「高緯度」

五日午後、最初に訪問したのが通産省宇宙産業課。横田真課長補佐からブリーフィングなどの通産省の宇宙に対する取り組みを聞き、「天文台をつくるとか、ミニロケットを打ち上げるとか子供たちが集まると言う。宇宙を通したいろの夢になる」とのこと。何



工場内に横たわるH1ロケット

動を覚える。

### 十勝のセンター構想に理解示す

日本で初めて宇宙部門の技術の観光客を取った小野技師長は「既児島の種子島と内ノ浦の宇宙センター様、ぜひ交通事情からも遠い。北海道の方が時間的にそう遠くない。『静止軌道』打ち上げ場合の緯度が高いという問題も、打ち上げ機能が強くなると大きなハンディではないのでは。日本列島に適当局の確保できる。産業の方から言うと、宇宙基地は一つでも三つでもあった方がいい」と十勝の宇宙センター構想に理解示した。

この後、一行は横浜博覧会「試験用」の本体、燃料タンクが間まるないと、特定で宇宙部を視察する。日本宇宙開発事業団が宇宙飛行士の体験をするアストロキャンプの模様や別館のソ連の宇宙ステーション・ミールの実物大模型の中に入り、宇宙の楽しさを味わう。

ただ、宇宙館でも展示された「はやて」発球の子供たちと順するアストロジアターの評判は今ひとつ。「昨年、食の祭典で映されたドリームライフ」というのが一行の感想だった。

清潔で静かなムード。白い服で身を包んだ技術者が側微鏡で人工臓器の細かな部品を製造したり、環境試験に取り組んでいる。

単体では日本一大きな振動試験機、衛星の部品、素材なども自の当たりにつこれらの部品が宇宙に行くのか」と感ヨンが間まるないと、特定で宇宙飛行士の体験。

全長四十メートルのH1は今後あと四基、全長四十八メートル、総重量三百五十トンのH2は並成四年度に初めて打ち上げられる。すべてこの工場で最終組み立てをし、種子島から発射する。ごみが入らず、カビが出ないように細心の注意をはらいながら試験を行っている。一行は「ここでロケットが誕生するのの宇宙部を視察する。日本宇宙開発事業団が宇宙飛行士の体験をするアストロキャンプの模様や別館のソ連の宇宙ステーション・ミールの実物大模型の中に入り、宇宙の楽しさを味わう。

ただ、宇宙館でも展示された「はやて」発球の子供たちと順するアストロジアターの評判は今ひとつ。「昨年、食の祭典で映されたドリームライフ」というのが一行の感想だった。

清潔で静かなムード。白い服で身を包んだ技術者が側微鏡で人工臓器の細かな部品を製造したり、環境試験に取り組んでいる。

単体では日本一大きな振動試験機、衛星の部品、素材なども自の当たりにつこれらの部品が宇宙に行くのか」と感

### この工場で最終組み立て

「この工場のスペースをニスパン増設し、今後スペースシャトルの母部の製作に入る。今年から設計は本格化しているが、スペースステーションが打ち上がるまでは、ボーイングB-1型機の胴体の製作工程をつくるためにみたあと、お目当ての日ロケット、H2ロケットの製造光景を見学する。

ペースはH1、H2ロケットの本体、燃料タンク、長さ五十メートル、幅三十メートルの巨大な組み立て場。

平成四年度打ち上げ予定のH2ロケット、さらにその先のスペースステーションの時代が目前に迫っている、との実感が伝わってきた。

最終日八日、名古屋から東京にUターン。千代田区北の丸公園・科学技術館でH1ロケット発射の映像などを見学。午後、浜松町貿易センタービル二十二階の宇宙開発事業団を訪問する。

### 広い南十勝やはり最適

村田良一総務部長、柴藤羊二計画管理課長から、宇宙開発の中心になっている事業団の中身について説明を受ける。

柴藤課長は「二十一世紀になる日本独自のスペースステーションができ、宇宙工場を施め、視察の全日程を終えた。

日本電気横浜事業所で小野技師長の説明を受ける一行

につながる。そのころには日本OPEBの次のスペースプレーンが必要。二〇一〇年ごろになると思う。そうなると着陸基地が一カ所ではとうしようもなく、広い所が必要だ。設計にもよるが、五キロくらいの滑走路がメドで、飛行機のように離発着するので、南北の緯度は関係ないと思う」と説明した。

一行は「広い南十勝はやはり二十一世紀の有人スペースプレーン時代になる宇宙基地としては最適。それまで粘り強い運動が必要だ」と印象